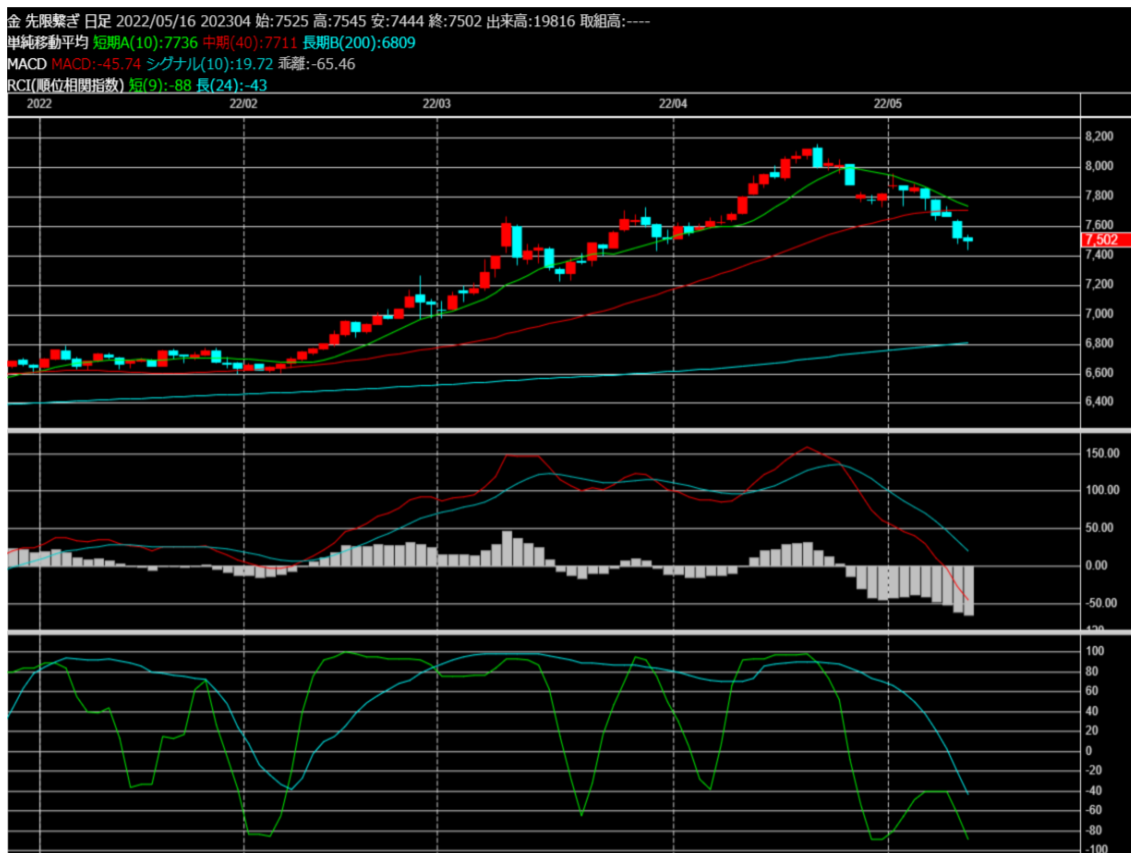


<金標準先物、金利を生まない金の本領発揮・・・>



(出所：オアシス)

パウエルFRB議長は、0.75%の過度な利上げは否定したが、6月、7月のFOMCでは0.5%の利上げを示唆している。特に消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）が事前予想を上回るが、前月の数字は下回るなどインフレはピークアウトを示しているが、高いインフレが持続的に示す状態が予想されインフレ抑制の動きが強まる状況である。

特に金利を生まない金は、4月19日に長期30年債の金利が3%を超え、実質金利もマイナスサイドからプラスサイドへと転換するなど、為替市場ではドル高を推し進めており、金利を生まない金は、ドル高の動きでも価格の上昇を抑制されている。

そのため金標準先物は4月20日に8160円をピークにFOMCやCPI、PPIの発表を織り込みながら、先週末は7444円まで下値を試すなど、高値から500円を超える下落に結び付いている。特に今週17日は小売売上高、パウエルFRB議長やラガルドECB総裁の講演が重なっており、更なる下落に結び付く可能性が高いと思われ注意が必要である。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが下がり、シグナルも下げている。またRCIも短期と長期が下げており、どちらも転換を示すクロスは発生していない。ただ日足が10日移動平均線と乖離した状態であり、一時的な7700円に向けたリバウンドには注意したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 995,500 円(2022 年 5 月 16 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 5 月 16 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>